

# 障害者の就労支援

東北公益文科大学 3年 高橋 源弥

I、概要 II、浮かんだ疑問 III、社会福祉協議会への提言 IV、参考文献

## I、概要

本提言文のテーマである「障害者の就労支援」を決めた動機は、大学で5日間を通しておこなわれた社会福祉士の体験実習からだ。私はこの体験実習で、会社に勤務されている知的障害者のAさんへのモニタリングに同行させていただいた。その際、近況のお話について伺っているときに疑問が浮かび上がった。その疑問を元に、社会福祉協議会に障害者の就労支援について提言する。

## II、浮かんだ疑問

知的障害者のAさんのモニタリングで就業・支援生活ワーカーの方と会社を同行訪問させていただいたときのことである。そこでAさんの近況について早速お話を伺っていると、ある疑問が思い浮かんできた。それは「どうしてAさんはこの会社に勤務されたのだろうか？」という疑問だ。直接的に「なぜこの会社に勤務されたのですか」と質問があったわけではないが、私はAさんのお話を聴くと同時に、障害者の就労支援について考えていた。

私は障害者の方と関りを持つようになってから、将来自分でお金を稼いで生きていくために「仕事」は切り離せないものだと思った。しかし、働くためには志望動機や様々な知識や準備が必要になる。就労支援体制は障害者の人生を大きく左右するものであり、質の高い支援が求められる。

## III、社会福祉協議会への提言

社会福祉協議会が障害者の就労支援について、協力できることの1つは情報提供だ。例えば、現代では障害者の就労支援で「チーム支援」という考え方がある。ハローワークを中心に福祉施設や職員などが連携・協力しながら就職活動や職場定着を図っていくものだ。そこでは就労支援計画が作成され、障害内容や本人の希望が記入される。ここに地域に住んでいる障害者の情報提供を社会福祉協議会が関わっていくことができるのではないかと考えた。

2つ目に、地域のなかでも仕事に繋がる情報提供体制を作ることができないかということだ。社会福祉協議会の強みとして住民の方と距離が近いことが挙げられる。ボランティアの方やいきいき百歳体操など、普段から住民の方と関わる場面が多くある。また、社会

福祉協議会も外に出向いていく活動がとても多い。そこで、情報を持っている住民の方々に障害者の方のために働ける場所の情報提供、紹介を担っていただくお願いが出来ないかと考えた。

3つ目は正式な会社でなくとも住民の方の自宅を訪問して仕事のお手伝いで賃金を貰うというやり方もあるのではないかと考えた。例えば、農作業などだ。もちろん、お金が発生するものなので社会福祉協議会が介入することになるだろう。一旦、社会福祉協議会に住民の方が農作業の要請をし、協力していただける障害者に先払いをしたうえで実行することが必要なのかもしれない。障害者の方にとっては、この体験が1つの成功体験に繋がれば良いと思う。障害者雇用では超短時間雇用といった考え方もあり、1時間勤務（または30分）でも賃金が発生する働き方がある。

以上3つが私の社会福祉協議会に対する提言である。私は大学のインターンシップで社会福祉協議会にも体験実習で訪問したことがある。提言内容は社会福祉協議会だからこそできる障害者の就労支援への関わり方、地域住民を巻きこんでの支援方法ではないかと考えた。

#### IV、参考文献

1、チーム支援ってどんな支援？

[https://www.web-sana.com/site/sana\\_report/support\\_06.html](https://www.web-sana.com/site/sana_report/support_06.html)

2、障害者雇用の新メソッド！“超短時間雇用”とは？

<https://www.nhk.or.jp/heart-net/article/117/>